

授業展開例（総合的な学習の時間）

1 校種・学年 高等学校 第2学年

2 単元名：「ディベート ―コンビニエンスストアの24時間営業を禁止すべきである―」

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、総合的な学習の時間の目標である「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、課題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えさせることができるようにする」ことを実現していくために、社会の中で賛否両論の意見が分かれている「コンビニエンスストアの24時間営業を禁止すべきである」をテーマに「ディベート」の考え方や手法を活用して、生徒が探究的に取り組むことができるように構成する。

今回実施する「ディベート」は一般的な「ディベート」とは異なる。通常、「ディベート」とは、自分の考えを主張し、どちらが優位なのかを判断するものである。ゆえに、「ディベート」では、弁論術が問われがちである。今回試みる「ディベート」が一般的な「ディベート」と異なる点は、単にどちらが優位なのかを判断することに留まるのではなく、自分の意思に関係なく予め決められた立場から事象を考察していく点及び最終的に判断をする「審判グループ」の存在が最も重要である点である。

このことは、相手の立場に立って事象を考察すること及び好みや主観ではなく客観的に冷静に事象を判断することができる能力を育成することができると思う。すなわち、人権教育において重要な素養が育成できると考える。

(2) 生徒観

「コンビニエンスストア」については、高校1年の「家庭基礎」の「消費生活」「消費行動と意思決定」において流通や販売の多様化等として学んでいる。しかし、「コンビニエンスストア」の営業が労働環境、エネルギーの問題、経営面、生活安全面、教育面等にどう影響しているのかを多面的・多角的・総合的に考察して、自分たちの社会としては「24時間営業」に賛成か反対か、根拠を明確にして意見を述べ合うような学習は十分ではない。

また、当該年次は、昨年11月1日に「ディベート」の授業を経験している。大学生のサポートにより、資料収集・活用・プレゼンテーションの手法や考え方など異なる角度からアプローチすることができた。これにより、視野を広げ、前回よりも高いモチベーションで取り組んでいる生徒が多くいる。しかし、アンケート調査と教員による行動観察の結果から、生徒個々のコミュニケーション能力にはまだ大きな幅があり、自己の考えや気持ちを表現したり、他人の考えや意見を聞くことを苦手としている生徒が少なくないことがわかった。さらに、意思を決定する際に、周囲との人間関係を重視しすぎたり、断片的な知識や経験を根拠としたりするなど、主観的で判断規準が不明確な生徒もいる。これらのことから前回に引き続き自己の在り方生き方を考える際、「自分さえ良ければいい」という自己中心的な考え方や「自分さえ我慢すればいい」という自己否定的な態度ではなく、自分も他人も大切にして共に生きていくことができるよう、課題解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む技能・態度を身に付させることが重要であると思う。

(3) 指導観

今年度の11月に実施した前回の「ディベート：コンビニエンスストアの24時間営業を禁止すべきである」生徒アンケートの自由記述から、次のような良かった点と改善すべき点が出ている。

【良かった点】

- ・いろいろな話をして協力できた。
- ・自分の意見を言えた。
- ・自分たちの目線では見えなかったことも見ることができた。
- ・こちらの話をよく聞いたうえで、サポートしてくれたのでとても分かりやすかった。

・参考となる情報を持っていた。

【改善すべき点】

- ・相手からの意見をしっかりと聞き、こたえられるようにすればよかった。
- ・大学生と比べたら資料が圧倒的に少なかったため、最初何も話せなかった。もっと調べておけばよかった。
- ・意見や理由を短い時間でまとめることが難しかった。
- ・メモを分かりやすくきれいに書くことが難しかった。

これらのことから、意見を言えて「自分自身を肯定的」にみることができたり、「他者の意見やサポートがあったからこそ、見えなかったことが見えるようになったり、できなかったことができるようになった」と自他の良さを実感している様子がわかる。

しかし、準備段階で多様な資料が準備できたら、もっと議論できたと思っていたり、相手の意見をもっとしっかりと聴くためにメモなどを分かりやすく書くことの必要性を感じている。

そこで今回は、次のような仮説を立てる。

仮説：下の①②の指導を行えば、事実をもとに自分の考えを相手に配慮しながら伝え合う活動が活性化し、意見の異なる多様な人々が共存可能であることを学ぶことができるであろう。

- ① 準備段階で資料を多面的・多角的に収集・分析させる指導を充実させる。
- ② 他人の主張の要点を分かりやすく素早くワークシートに書かせる指導を充実させる。

前回の指導に加え、このような指導の工夫を行えば、総合的な学習の時間の目標と同時に人権教育で育成したい、人権感覚（相手の人格を否定せず、自分の考えを相手に配慮して適切に自己表現するスキル、傾聴のスキル、他人の立場になって考えることができる能力及び偏見に流されることがなく事象を客観的に判断することができる能力等）の育成につながると考えている。

4 単元の目標

教科等：「コンビニエンスストアの24時間営業を禁止すべきである」をテーマに「ディベート」の考え方や手法を活用して、賛否両論について主体的、創造的、協同的に取り組み、自己の在り方生き方を考える。

5 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
・「コンビニエンスストアの24時間営業を禁止すべきである」というテーマに関心をもち、意欲的にそれらを探究しようとしている。	・「コンビニエンスストアの24時間営業を禁止すべきである」というテーマについて、決められた立場から自分たちの考えを立論している。 ・異なる立場が、何に価値を置き、どのような事実を根拠に意見を構成しているのか想定を考えている。 ・テーマの是非について客観的・科学的に考え、主張と根拠から判断している。	・「コンビニエンスストアの24時間営業を禁止すべきである」というテーマについてインターネットや書籍を用いて、情報を多面的・多角的に収集・選択して図や表にわかりやすく表現している。 ・相手の発表を聴き、質疑応答を適切にするため、他人の主張の要点を素早くわかりやすくメモを取り、グループの意見をまとめる話合いに生かしている。	・「ディベート」とはどのようなものか考え方や進め方を理解している。 ・「コンビニエンスストアの24時間営業を禁止すべきである」というテーマの是非について、賛否両論のキーワードを知識として理解している。

6 指導と評価の計画 (11 時間)

時	学習内容	評価				評価規準
		関	思	技	知	
1	・ディベートの 手順 ・テーマに関する 調査			○	◎	◎「ディベート」とはどのようなものか考え方と進め方を理解している。 ○インターネットや書籍を用いて、テーマに関して情報を多面的・多角的に収集・選択している。
2	・テーマについて の調査				◎	◎インターネットや書籍を用いて、テーマに関して情報を多面的・多角的に収集・選択している。
3	・キーワードの 作成		◎			◎決められた立場から自分たちの考えを立論している。
4			◎			◎異なる立場が、何に価値を置き、どのような事実を根拠に意見を構成しているのか想定を考えている。
5	・発表 ・質疑応答 ・判断, 整理			○	◎	◎相手の発表を聴き、質疑応答を適切にするため、他人の主張の要点を素早くわかりやすくメモを取り、グループの意見をまとめる話合いに生かしている。 ○テーマの是非について客観的・科学的に考え、主張と根拠から判断している。
6	・テーマに関する 調査	◎				◎テーマに関心をもち、意欲的かつ多面的にそれらを探究しようとしている。
7	・発表				◎	◎相手の発表を聴き、質疑応答を適切にするため、他人の主張の要点を素早くわかりやすくメモを取り、グループの意見をまとめる話合いに生かしている。
8	・質疑応答 ・判断, 整理		◎			◎テーマの是非について客観的・科学的に考え、主張と根拠から判断している。
9	・キーワードの 作成				◎	◎テーマの是非について、賛否両論のキーワードを知識として理解している。
10	・大学生による 指導	◎				◎テーマに関心をもち、意欲的にそれらを探究しようとしている。
11	・発表 ・質疑応答 ・判断, 整理			○	◎	◎相手の発表を聴き、質疑応答を適切にするため、他人の主張の要点を素早くわかりやすくメモを取り、グループの意見をまとめる話合いに生かしている。 ◎テーマの是非について客観的・科学的に考え、主張と根拠から判断している。

7 本時の展開

(1) 本時の目標

○教科等の目標

- ・自分たちの立論を説明するとともに、相手の立論を傾聴し、適切にメモを取り質疑応答することができる。
- ・審判は、両論を良く聴き、審判団が協力して、テーマの是非について最終判断をすることができる。

○人権教育の視点

- ・自分も相手も大切にしたコミュニケーション ・傾聴 ・偏見に流されない、客観的な判断力

(2) 評価の観点

教科等

- ・相手の発表を聴き、質疑応答を適切にするため、他人の主張の要点を素早くわかりやすくメモを取り、グループの意見をまとめる話合いに生かしている。
- ・それぞれの主張となる根拠に妥当性があるか、その主張は多くの人々が求めるものかを考えて得点化している。

人権教育の視点

- ・相手の人格を否定せず、自分の考えを適切に表現しているとともに相手の話を傾聴している。

- ・一部の情報や人間関係に流されるのではなく、物事を多面的多角的に考え判断している。
- ・事実をもとに自分の考えを相手に配慮しながら伝え合う活動が活性化し、意見の異なる多様な人々が共存可能であることを学ぶ

(3) 準備物：タイマー、ワークシート、主張の資料、想定資料

(4) 学習展開

	学習活動	指導上の留意事項	評価の観点	評価方法
導入 3分	<ul style="list-style-type: none"> ・司会者の指示のもと、各グループで役割分担スピーチ内容、注意事項を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめは、司会者が安心して進行できるように側で待機する。 		
展開 44分	<ul style="list-style-type: none"> ・「肯定グループ」「否定グループ」の「司会系」「記録系」「発表者」を確認しどのように協力してチームとしてディベートを行うか確認する。 <p>【第1回の立論】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「肯定グループ」の第1回目の立論を行う。 ・「否定グループ」が質問を考え、絞って質問する。 ・「否定グループ」の第1回目の立論を行う。 ・「肯定グループ」が質問を考え、絞って質問する。 <p>【第2回の立論】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回の立論を受け、第2回目の立論を行う。 ※ 第1回の立論と同様のプロセス <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのグループで質問への回答を考える。 <p>【質問への応答・反駁】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「否定グループ」から、質問への回答を行う。 ・「肯定グループ」から、質問への回答を行う。 <p>【審判グループの協議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・判断結果の公表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・司会者が時間をコントロールできているか確認する。コントロールできていない場合は、どの時間を調整するのか司会者に指示を与える。 ・適切にメモをとったり、根拠をもとに評価できているかを見て回る。適切にできていなければ具体的な指示を与える。 ・人格を否定するような回答がよいため、感情論になっていよめ注意深く聴き、状況によっては補足や注意を行う。 ・審判団一人ずつのジャッジを発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の発表を聴き、質疑応答を適切にするため、素早くわかりやすくメモを取り、グループの意見をまとめて、考えたことを発表している。 ・相手の人格を否定せず、自分の考えを適切に表現しているとともに相手の話を傾聴している。 ・それぞれの主張となる根拠に妥当性があるか、その主張を多くの人々が求めるものかを考えて得点化している。 ・一部の情報や人間関係に流されるのではなく、物事を多面的多角的に考え判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・ワークシート ・行動観察 ・ワークシート ・行動観察 ・ワークシート
まとめ 3分	<ul style="list-style-type: none"> ・各教室ごとの担当教員からのまとめ ・あいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・論争問題はメリット・デメリットの両面があり、単純に判断できない問題であることを告げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の体験から意見の異なる多様な人々が共存可能であることに気付かせる。 	

ワークシート1

肯定・否定

2年__組__番 氏名_____

テーマ「コンビニエンスストアの24時間営業を禁止すべきである」

肯定グループの発表	否定グループからの質疑	肯定グループの応答
否定グループの発表	肯定グループからの質疑	否定グループの応答

ワークシート2

論題「コンビニエンスストアの24時間営業を禁止すべきである」

判定	肯定側								否定側							
	A・肯定側の第1立論の内容 評価 ①〇x	B・否定側からの質問内容 評価 ①〇x	A・肯定側の第2立論の内容 評価 ②〇x	B・否定側からの質問内容 評価 ②〇x	A・肯定側の応答-反駁の内容 評価 ③〇x	B・否定側の応答-反駁の内容 評価 ③〇x	A・肯定側の第3立論の内容 評価 ④〇x	B・否定側からの質問内容 評価 ④〇x	A・肯定側の第1立論の内容 評価 ①〇x	B・否定側からの質問内容 評価 ①〇x	A・肯定側の第2立論の内容 評価 ②〇x	B・否定側からの質問内容 評価 ②〇x	A・肯定側の応答-反駁の内容 評価 ③〇x	B・否定側の応答-反駁の内容 評価 ③〇x		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		
	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨		

肯定側への対パイス

否定側への対パイス

肯定 ． 否定 (どちらかに〇印)

A側の〇の合計()個 ． B側の〇の合計()個